

## 北海道新幹線開業特番

(鉄道好きが鉄道番組を作っちゃった…)

制作技術部

はじめに

1988年に青函トンネルが開通してから28年。念願の新幹線が北海道にやって来た。その世紀の瞬間を道民に余すところなく伝えた開業特番について報告する。今年が六社会の幹事年ということで、各社調整とJR北海道や北斗市との調整も同時におこなう非常にハードなものとなった。



新函館北斗駅

### 1. 現地地下見

昨年の北陸新幹線開業では、直前の1週間は毎日のように金沢駅に通っていたと系列のMROさんから聞いていたが、下見で現地の新函館北斗駅を訪れたのはたった4回だった。JRの担当者も手探り状態で、下見段階でTV局の要望が通ることは少なく、ほとんどが持ち帰っての検討となった。

それでも鉄道好きにはたまらないいいこともあった。2回目に訪れた際にH5系新幹線がHBCのロケで入線し

て来て、本物を目にすることができた。ただただ「カッコいい！」だった。



H5系新幹線

### 2. ホテルの確保

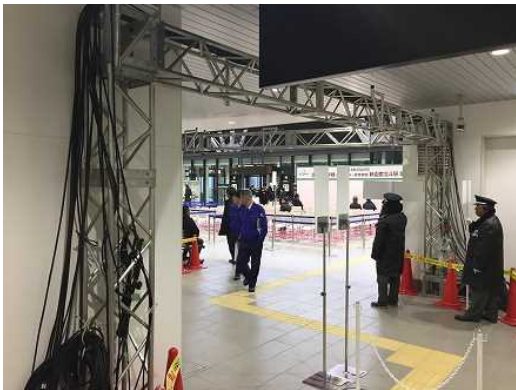
開業日の約半年前となる10月3日に、中継をするなら前日のスタンバイになると予測し、3月25日のシングル1泊16室分を予約した。その後、社情や報道もホテルを取ったが1人部屋を確保することはできなかった。

1番列車が6:35に発車することから我々が現場入りするのは3:30頃となり、そこから逆算すると睡眠時間がかなり少なくなることが予想されたため、なるべく1人部屋をGETして睡眠環境を整えたかったのだ。

### 3. ケーブルルート

新幹線中継はとにかく縛りがキツかった。ホームから壁を伝って駅の外にケーブルを出すことがNG。まだ使われていない13番線の線路用地にセッ

ディングで足を踏み入れることもNG。さらには客の動線となる足元をケーブルがまたぐのもNGとされた。JRからは北陸新幹線開業時の様に、ホームのカメラは無線できないかと言われたが、各社とも有線でおこないたいと要望した。そこで、アルミトラスとオートポールで客の動線をまたぐケーブルルートはすべて空中を架空することにした。中継後には新函館北斗駅の駅長から「とてもきれいに架空していただきありがとうございます」と言っていただいた。



**アルミトラスによる架空**

北斗市から借りた新函館北斗駅に隣接する中継車駐車が道路を挟んだ2カ所に分かれていたため、イントレを両脇に建ててケーブルを架空して道路

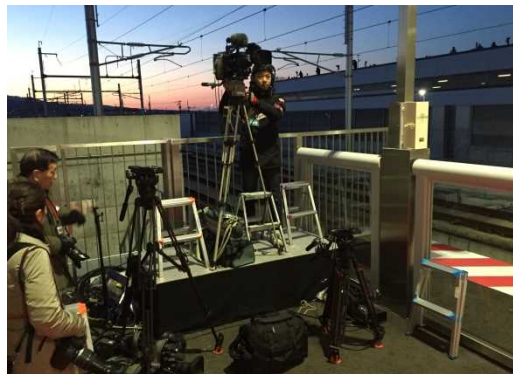


**イントレによる架空**

を渡り、各社共通のケーブルルートでホームまで布線することができた。

#### 4. カメラ位置

12月の第1回下見で1番列車の先頭位置はカメラスペースが限られているので、TV2社の代表制にしてほしいとJRからの要望があり、NHKとHBCの2社で受け持つことになった。



**1番列車の代表カメラ位置**

その他の希望するカメラ位置を各社分まとめてJRに提示していたが、アンサーが来たのは1月末だった。どうやらJR西日本に北陸新幹線開業時の状況をリサーチしていたようで、いくつかのNGカ所を含めて2月の現地下見であらためて確認することになった。

また開業10日前までトラスによるケーブルの架空が許可されずカメラ位置がなかなか確定しなかったり、確定したカメラ位置にJR広報も知らないベンチや案内板ができるなど開業前日までバタバタだった。

#### 5. ヘリコプター中継

HBCは青函トンネル上空での代表ヘリを担当することになったため、函

館山でのFPU受信テストを急遽おこない受信状況を確認したが、海上伝搬の影響で受信電界に変動が多く、時折フリーズすることもあった。各社にはテスト結果を伝えて、フリーズした場合はヘリで収録したVTRを再送するということで了承してもらったが、本番でフリーズすることはなかった。



函館山でのFPU受信

#### 6. 青函トンネル展望台中継

青函トンネルを実際に掘った元トンネルマンをゲストに迎え、新幹線がトンネルに出入りする瞬間を中継した。事前に知内町と調整していたため、中継車位置とカメラ位置がしっかりと確保され、混乱もなく大勢の町民とともに世紀の瞬間を迎えることができた。



青函トンネル展望台からの新幹線

#### 7. 木古内駅中継

新幹線の木古内駅と、隣接する旧在

来線の「いさりび鉄道」の木古内駅から中継をおこない、立地条件と移動範囲から機動性のあるLiveUを使用した。下見時にコンコースでおこなった伝送テストでは3Mbps程度と心もとなかったが、当日のホームからの伝送では9Mbpsを超え、全く問題なかった。



LiveU中継セット

#### 8. スタジオに巨大ジオラマ

メインとなる1スタでは、出演者がすっぽりと中に入る巨大ジオラマが、北海道新幹線開業をさらに盛り上げるのに一役買った。このジオラマは苫小牧に住む模型愛好家が約2カ月かけて制作したもので、HBCが支払った費用は輸送費だけというとんでもなくありがたいセットだった。また新函館北斗駅や青函トンネルなどが精巧に作られていたため、中継の乗り降りなどでも効果的に表現することができた。



巨大ジオラマセット



## 9. 1 番列車を追い！

新函館北斗駅を 6 : 3 5 に発車する 1 番列車を 3 カ所の中継点と 2 機のヘリコプター (NHK の代表ヘリを含む) を駆使しながら、全国ニュースを間に挟みつつ、ディレクターの緻密な時間計算により、余すところなく青函トンネル内へと導くことができた。

### 6:35 新函館北斗駅 (1 号中継車)



### 6:37 北斗市上空 (NHK 代表ヘリ)



### 6:47 木古内駅 (Live U)



### 6:49 木古内町上空 (NHK 代表ヘリ)



### 6:54 青函トンネル入口 (HBC-71)



### 6:56 青函トンネル上空 (HBC ヘリ)



さいごに

北海道新幹線は 15 年後の 2031 年 3 月に札幌まで延伸されることが決まっている。鉄道好きとしては札幌に新幹線がやってくるだけでワクワクしているが、15 年後にはさらに進化しているであろう最新機器や最新技術で、どのような画期的な中継が実現できるのか楽しみである。

15 年後に 60 歳を迎える私が、どこでどのような立場で札幌に新幹線を迎えることができるのか、それも今からの楽しみである。

以上